

低用量ピルは、卵巣でつくられる「卵胞ホルモン」と「黄体ホルモン」の 2 つが主成分で、これら女性ホルモンの作用を利用して、避妊を目的で開発された薬です。

中・高用量ピルは、含まれているホルモンの量が多いので、気分が悪くなったり、むくみなどの不快な副作用が多く見られますが、低用量ピルは避妊効果を維持しながらホルモンの量をぎりぎりまで少なくしたものです。



1. 排卵抑制

低用量ピルを飲んでしていると、脳がからだの中には十分ホルモンがあると判断し、ホルモンの分泌を抑えます。その結果、卵巣がお休みして排卵が抑えられます。

2. 子宮内膜の増殖抑制

通常は、月経周期とともに、受精卵が着床しやすいように子宮内膜が増殖するのですが、ピルを飲んでいる間は内膜が厚くならないので、受精卵が着床しにくくなります。

3. 精子の進入阻止

子宮頸管の粘液を変質させて精子の進入を防ぐ作用があります。

ピルの副効用

副効用とは、本来の働きである「避妊」以外のオマケの効果のことです。避妊効果だけでなく月経困難症や月経前症候群の辛さを軽減し、子宮内膜症の治療にも効果があると言われ、これが現代女性にとっても嬉しいメリットなのです。

月経周期のコントロール

- 月経困難症(月経痛)の改善
- 月経出血の減少による貧血の改善
- 月経不順の改善
- 子宮内膜症の予防と改善

ホルモンバランスの改善

- 月経前症状(PMS)の軽減
- にきび、多毛などの改善
- 更年期症状、骨粗しょう症の予防

排卵抑制

- 卵巣がんの予防
- 子宮体がんの予防
- 卵巣嚢腫の減少



ピルの副作用

ピルを飲み始めると、吐き気や頭痛、不正出血、乳房の痛みなどの軽度の副作用が起こることがあります。また、イライラや気分の落ち込みを経験することもあります。これは、からだ慣れるまでの一時的なもので自然に治まります。これらの症状が我慢できないときは、ピルの種類を変えるとラクになることがあるので医師に相談してください。また、ピルの服用には、既往症や喫煙習慣、年齢によって制限があります。

最後に低用量ピルは、そのほとんどが避妊だけでなく、自分のからだのことをきちんとコントロールしたい大人の女性のニーズに応えたものです。忙しい現代女性にとって嬉しい効果がたくさんありますので、まずはピルへの理解を深め、正しく利用したいものです